

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
1	重点課題	②茂原には、活力がないというか、「これでよい」と思っているところがあり、そのような気持ちを変えないといけないと思う。外から若い人を入れないと活性化しないが、なかなかうまくいっていない。	まちづくりの重点課題の整理に用いた市民生活に沿った視点は、基本計画にも取り入れて、行政においては分野横断的な取り組みを、市民の側からは自助・共助の動きを、それぞれ誘うような工夫を検討されたい。	課題4 一人ひとりの意識の醸成
2	重点課題	②また、相互評価のまちづくりも今後重要になる。色々な資源を相互に評価する。例えば教育では、教わる、教えるの関係性を固定するのではなく、両者の関係性を深めていく。経済では物をつくる、買う、福祉では支える、支えられる、観光では訪れる、もてなす、など相互の関係性を深めていく。また、上から下ではなく、フラットに関係性を作る中で可能性を膨らませていく。		【市民アンケート、市民ワークショップ、審議会の意見などを基に抽出した8つの重点課題を、市民のライフステージでどの期間に位置付けられるかという視点から「時間的な視点」3課題に、どれだけの空間的広がりを持つ課題であるかという視点から「空間的な視点」3課題に、時間・空間双方に共通するまちづくりの手法として2課題に、それぞれ整理した。】 【「時間的な視点」「空間的な視点」については、基本計画に掲載されている施策の市民生活における位置づけを理解する手段として「施策の対象となる領域」欄を設けた。また「関連する時間的・空間的視点に関わる取り組み」欄を設け、分野横断的な取り組みの例を記載した。】
3	重点課題	③序論の「まちづくりの重点課題」はストーリー性に欠けている印象がある。色々な項目が並べられているが、具体的な動きに結びつける際の流れが見えてこない。例えば、ライフステージをイメージすると、子どもが生き生き育つ環境づくりは、出産・子育て・教育に関連し、働くことは産業やシティープロモーションに関連し、その後高齢者福祉の話が出てくる。ライフステージを考えつつながりの中で、重点施策をどのように位置づけていくかが形になるとよい。レジリエンスの向上はまちづくり全体に関わる空間的な位置づけになる。コミュニティの活性化は全分野に関わるベースになる。多様な主体の協働や先進技術はまちづくりを進める上での手法や工夫のしどころになる。ライフステージや地域空間を念頭に入れ、新しい手法や様々な力を交えてまちづくりを進めることを記載すれば、基本構想の焦点が明確になってくると思う。		
4	重点課題	④時間的な視点について、ライフステージを意識した流れになっている。これまでの行政計画は、分野別にぶつ切りになっていた。「学ぶ」「育つ」と「働く」のつながりをどう考えるのが重要になる。市内で働く人が子どもに教えることや、働くことを体験するなど。また、「働く」と「老いる」、「学ぶ」と「老いる」の関係性も問われている。異世代間交流や世代のつながりを強く表現してよいと思う。「老いる」の後に「死ぬ」が来る。行政では位置づけづらいが、現在は多死社会である。高齢者にとって、どのような最期を迎えるかが課題となっていく。死に備えた学びの機会を地域で充実させる動きも出てきている。		
5	重点課題	④空間軸について、若干すわりが悪い。コミュニティは近隣のつながりを現す。多様な主体は、ボランティアや企業などで様々な人の参加を指す。市として何をするのかという公助が書かれていない。自助と共助、公助がそれぞれどう関わるのかについては、補完の関係である。より小さな単位ができることはやり、それができなければ、もっと大きな単位でやっていく。自助、共助ではできないことを行政がすることを、補完行政という。初めに行政ありきではなく、補完として何をするのが今後の課題になる。3つの関係性を書きこめるとより良い図になると思う。		
6	重点課題	④2つの視点をつなぐのが協働になると思う。子育てを地域コミュニティではどう考えるのか、市域ではどう考えるのかなど、時間軸と空間軸の掛け合わせを示すことも可能だと思う。		

茂原市総合計画審議会答申並びに意見対応(基本方向)

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
1	基本方向	②茂原は水害が多いが、川の改修が進んでいない。生活の場を整える必要がある。	頻発する自然災害への対応は喫緊の課題であり、市民の生命を守り、安心して暮らせるまちづくりに努められたい。	(1)誰もが安全安心に暮らせるまちづくり 地震や風水害といった大規模災害に対する対策を進め、 <u>地域全体のレジリエンス(回復力、復元力、しなやかさ)を高めるほか、医療環境の充実を図り、全ての市民がどのようなライフステージにあっても健康で安心して暮らせるまちをつくり</u> ます。
2	基本方向	③昨年の災害を受けて、第一に河川の整備を早急に国や県、近隣の市町村とともに進めていく必要がある。2名の死者が出ており、また、気候変動の影響が大きくなると予想されていることから、喫緊の課題として取り組むべきだと思う。		
3	基本方向	④どのようなレベルの防災対策をしても100%自然災害を根絶することはできない。東日本大震災における海岸の堤防にしても、当時は十分だったが、実際は津波を防げなかった。温暖化の影響で想定外の災害が増えている中で、「安心」を強調しすぎるのはどうなのか。		
4	基本方向	③少子超高齢社会になるのが見えているが、これからの時代を担う子どもたちのため、子どもを育てやすい環境にお金を使う必要がある。	持続可能なまちづくりには、それを支える人材の育成が不可欠である。これからの時代を担う子どもたちのため、育てやすい環境づくりと、社会の形成に資する能力の育成に努められたい。	(2)明日を担う人を育む未来に向けたまちづくり 安心して子どもを産み育てられ、子どもが健やかに育つ環境づくりを進めるとともに、 <u>子どもたち一人ひとりが柔軟かつ主体的に未来を切り拓いていくのに必要な能力を育むための教育の充実を図り</u> ます。
5	基本方向	⑤茂原の資源に七夕まつりがあるが、将来につなげるには、大人だけでは限界があると思う。例えば、各学校で七夕クラブを作ってはどうか。子どもたちの目線で七夕まつりのプロデュースをする。茂原学を本の上で行っているが、実践する機会となる。文化クラブ志向の子どもたちも多い。教育委員会との連携を通じ、将来の担い手の育成として検討してはどうか。		
6	基本方向	②地域コミュニティの形成が一番大切だと思う。市民が支え合い助け合うことが重要になるため、人が集まって話し合える場所をつくる必要があるのではないか。	人は地域コミュニティをはじめとする、さまざまな分野の共同体(コミュニティ)に所属している。コミュニティは市民生活や経済活動において基礎となるものであり、これを立体的に捉え、その密度を高めることによってまちづくりの力を引き出すことに努められたい。	(3)一人ひとりの地域参加で拓く協働のまちづくり <u>自治会をはじめとした地域コミュニティの活性化を図るとともに、企業や外国人など、従来はまちづくりへの参加が少なかった多様な主体も、重要な担い手として捉え、「オール茂原」で協働のまちづくりを進めます。</u>
7	基本方向	③人は、地域コミュニティ以外にも、出身、学校、職場、趣味のコミュニティなど様々なものを持っている。地域コミュニティは防災や子育てに関連するが、コミュニティを立体的に捉え、つながりの密度を高めていくことを考える必要がある。コミュニティは市民生活においても経済活動においてもベースになるものであり、コミュニティが疲弊しているところは何事も前に進まない。これだけの転換期の中で、コミュニティを捉えていくことは必要不可欠である。		
8	基本方向	②まちづくりに多様なプレーヤーを入れ、民間資本で民間事業者がまちづくりを進めていく必要がある。	人口減少の進行に伴い、まちづくりに使える人や金などの資源は今後減少していくことが見込まれている。これまでまちづくりに参加してこなかった市民や企業などの意識を変え、知恵を出し合える体制づくりを検討されたい。	
9	基本方向	④市役所は職員や予算が減っていくため、市民の意識を向上させて、協働することが重要だと思う。市民提案事業をもっと取り入れて、活動するようにすれば、お金を使わず知恵を出し合って協力できると思う。		
10	基本方向	④教育分野では障害者児童への支援、農業分野では小学校で農業教育、国際協力分野では外国人に対する日本語教育、行政評価分野では、市民による評価などの取り組みができると思う。協働の場では、若者の意見を取り込む仕組みを作ると良いと思う。		
11	基本方向	②茂原の歴史や文化を大事にし、観光行政などに活かしていくとよい。	歴史や文化、自然など、茂原が持っている良さを積極的に発信するとともに、それらを活用し地域活性化に努められたい。	(4)地域資源を活かしたにぎわいあるまちづくり 首都圏中央連絡自動車道(圏央道)開通によるアクセス向上を契機に、地域全体の産業競争力の向上に取り組むほか、 <u>歴史や文化、自然といった地域資源を活かしたシティプロモーション、先端技術の活用による地域活性化を推進し、にぎわいあるまちをつくり</u> ます。
12	基本方向	②茂原の良い所が外に発信されておらず、全国的に知られていない。もう少しアピールするべきだと思う。		
13	基本方向	②他の自治体にはない茂原市独自の資源は、天然ガスである。医療や福祉分野で、行政と民間のパートナーシップにより天然ガスを活用したまちづくりをもっと積極的に進めていただきたい。		
14	基本方向	②茂原は立地が良いゆえに、それに甘えているのではないかと。木更津ではバスターミナルに大きな駐車場があるように、いい立地をさらに生かす工夫があるとよいのではないかと。		

茂原市総合計画審議会答申並びに意見対応(将来都市像)

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
1	将来都市像	②「安全・安心」については、災害対応や、安心して地域で暮らせるという視点が大事だと思う。	今後、持続可能なまちづくりを進めていくためには、市内、市外の地域資源を活かし、地域、分野、世代を越えた様々な主体がつながることで生まれる力が必要である。 市全体がまちづくりの力を生み出す場「交流拠点」となるビジョンを市民が共有できるように努められたい。	未来へつながる「交流拠点都市」もばら
2	将来都市像	②持続可能な思考に関わる言葉が入るとよいと思う。		
3	将来都市像	②今後10年間は治水や災害に強いまちに軸足を移し、アピールすることが必要だと思う。今回の災害で茂原が全国区になってしまったが、それを逆手にとって災害対策をメインにするとよいのではないか。現在も困っている市民がいるため、市民を力づける意味でも重要だと思う。		
4	将来都市像	②これからのまちづくりの力を引き出すためには、世代、分野、団体、領域、近隣自治体がつながることが問われてくる。単独でするには限界がある。		
5	将来都市像	④自治体では今後、単独でのまちづくりは限界を迎えるため、市内・市外の地域資源を生かしていくことが重要である。交流人口や関係人口に代表される「つながり」の中で、力を創出していくと良い。立地的・歴史的優位を踏まえ、茂原だからこそできることを考えると良い。		
6	将来都市像	④外房の中核都市として、賑わいのあるまちを目指した方がよいと思う。防災や地域の強靱化はもちろん重要だが、産業が発達した賑わいのあるまちを目指した方がよいと思う。		
7	将来都市像	④要塞のようなまちをつくるより、交流や活性化を目指した方が、魅力的なまちになる。安全ばかりを強調するまちづくりは寂しいと思った。		
8	将来都市像	③人、お金、物、場所などまだ評価にさらされていないものを評価することで、可能性を見出すことを模索する環境づくりが必要である。どの施策をするにしても、推進する力が必要であり、それをどのように誘っていくかが重要である。双方向性を豊かにすることで可能性を引き出していく必要がある。これによってまちづくりの力が生まれる。これまでは税金である程度その力をカバーしていたが、税収が減る中で、放っておくとその力が減っていつてしまう。力を生み出すプロセスづくり、場づくり、環境づくりが必要である。		
9	将来都市像	④協働は色々な広がりがあり、間をつなぐ役割を果たす。行政も地域も縦割りになりがちである。各団体が自己完結型で活動してきたが、それが限界を迎えている。協働により、間をつないで連携して価値づくりや課題解決をする。また、単に連携で終わるのではなく、市外の人参加し、お金の流れも作るなど、色々な広がりを持っている。		
10	将来都市像	②市民は現在の計画のテーマを共有していない。「安心」など、簡単な一言で市を方向付けると、市民が共有でき、浸透していくと思う。		

茂原市総合計画審議会答申並びに意見対応(基本政策)

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
1	基本政策	③限りある資源は、住みやすいまちづくりに振り分けるべきだと思う。災害対策もそうだが、病院や公園、働きながら子育てがしやすいまちがよいと思う。今後は、テレワークのような働き方やネットショッピングが広がってくる。茂原に住むことがよいことが感じられるとよい。特に病院が心配だが、公園もあるとよい。	政策分野の名称のみを示すのではなく、各分野における目指す方向を明らかにし、市民にわかりやすく示すように要望する。	【災害に強く、安心して住めるまちを目指す観点から「しなやかで安心して住めるまち《安全安心》」を、市民や企業などさまざまな主体へまちづくりの参加を促していく観点から「市民が主役の持続可能なまち《協働推進》」を設定した。】
2	基本政策	③人口減少は全国で進んでいて、止めるのは難しいが、できれば現状維持となるようにしたい。それには、住みたくなるまちが必要で、働く場所がある、災害に強い、暮らしやすい、医療が充実している、高齢者や障害者に優しい、などの視点がある。それらを実行することによって、現状維持の方向に行けばよいと思う。総合計画であるため、具体的な策は書かれていないが、方向性を明確にし、最重要の課題に予算を振り分けることが必要だと思う。アンケートでは、茂原市に力を入れて欲しいこととして、保健医療、高齢者福祉、病院・医療施設、河川・排水路の改修などがあったため、それに沿った予算を考えていただければと思う。		
3	基本政策	④将来都市像のように、政策に目標を書く方が分かりやすいのではないか。今までと同じ施策内容であっても、目指す方向を示した方がよい。		【基本政策分野ごとに目指すまちの姿を記載した。】
4	基本政策	④時間軸・空間軸と基本政策のリンクはできると思う。時間軸や空間軸の中に基本政策を位置付けることは可能である。その方が、ライフステージや空間的な位置付けができると思う。教育文化や健康福祉はライフステージ、産業振興や都市空間は空間軸に位置付けられる。このままでいくと、縦割り行政が変わらない。これまではそれで良かったが、まちづくりに活かせる資源が限られている中、力を誘える計画になるよう、フレームを考える必要がある。市民自治においては、協働が時間軸と空間軸をつなげる役割を果たす。「つなぐ」が前面に出るようなフレームになると良い。		【重点課題で示した視点を考慮し、「市民生活に関する基本政策」、「都市づくりに関する基本政策」、2つの視点をつなぐ「協働推進」と整理した。】

茂原市総合計画審議会答申並びに意見対応(基本計画総論・全般)

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
1	全般	②総合計画は行政目線で語られがちだが、市民目線で語らないと「われわれの計画」になっていかない。	・まちづくりを我が事として捉えることができるように、各分野の施策が市民生活にどのように関わっていくのかを、分かりやすく示すように努められたい。 ・計画の進捗評価に用いる成果指標の設定にあたっては、定量的で、誰もが理解できるものとなるように努められたい。	【「施策の対象となる領域」欄に、その分野の施策が市民生活のどの領域に影響を与えているかを示した。】
2	全般	④「協働」は難しい言葉である。行政が使う場合は、行政ができないことを市民や企業と一緒に取り組むという意味になる。市民目線では、行政に依存するのではなく、自分たちでできることを共助として、連携して色々な立場で取り組むという意味になる。視点によって協働のイメージは変わってくるが、立場を超えた連携や、様々な地域資源を共有し、課題解決に活かすことが考えられる。		
3	全般	③昔の右肩上がりの時代では、庁内各課が自らの事業をできるだけ多く入れようと努力していたため、素晴らしいフレーズが計画に羅列されていた。しかし、今後の計画では地に足のついた計画で、やることだけを書いて、書きすぎないようにしていただきたい。		
4	全般	⑤(コロナ禍について)予防対策が問われる一方、このような状況だからこそその可能性をまちづくりに活用することが重要であるため、俎上に載せる必要がある。観光や地域経済のあり方など、これまで通りにいかない中でどのように進めるかを考える必要がある。		
5	全般	③総合計画における評価の位置づけは重要なポイントである。これまでの評価に基づいて新たな計画を作るべきであるため、今後問われていくのは、実施したことによって出た効果であるアウトカムである。どのようにアウトカム指標を計画に盛り込み、進捗を評価していくのかも、今後議論したい。		【テーマごとに進捗を管理するため「主要指標」を設けた。】
6	全般	⑦評価は定量的な基準があるべきだと思う。感覚的に決めるのはいけない。民間企業ではすべて数値で評価されるが、行政ではあまり数値は出さない。難しいと思うが、具体的な基準を示すことができる方法を検討していただきたい。お互いが理解できる基準を設けて欲しい。		
7	人口の見通し	②人口推計で想定されている定住人口だけでは、視点として不足していく。近年は、関係人口や交流人口が注目されている。茂原市に関係する人、訪れる人、産業で協力する人、ふるさと納税をする人、チャレンジする人などを増やす視点が重要となってくる。定住人口の視点から発想を変えることも必要だと思う。		
8	土地利用	②生活インフラの維持にお金がかかってしまうため、市内に散在している住宅などを集約していく必要があると思う。		第3節 土地利用 (中略) 快適な暮らしを維持するために「都市計画マスタープラン」などの土地利用の基本方針に基づき、適切な都市計画事業の導入や、各種規制誘導策の充実などにより、無秩序な開発によるスプロール化を防止し、計画的な土地利用を推進します。
9	土地利用	②市街化していく区域としない区域をはっきり仕分けすることによって、コンパクトシティを進めることも必要になると思う。		
10	土地利用	②農業に関しては、茂原市では耕作放棄地、遊休農地が増えているが、これは、従事者の高齢化や担い手不足が原因である。行政も中に踏み込んでいく必要がある。		第3節 土地利用 (中略) 農地は農業生産の場としてだけではなく、多面的機能により、災害の防止や自然環境の保全など、我々の生活に様々な「めぐみ」を与えてくれる貴重な資源です。農業振興地域において農地の保全・管理を図るとともに、増加している耕作放棄地の減少に努め、農業的土地利用の維持・再生を推進します。
11	財政の見通し	⑤財政の見通しの歳入について、市税よりも交付金の方が多いが、このペースで維持できるのか。少子高齢化で財政は厳しい。コロナで大判振る舞いが続いたが、それが続くのか。他力本願にならないようにしてほしい。タイムスケジュールが挙げられていないため、5年間どのように進めていくのか教えていただきたい。地域の水害対策を申し上げて10年以上になるが、進行状況は遅い。歳入についてしっかりと予測してほしい。		

茂原市総合計画審議会答申並びに意見対応(教育文化)

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
1	生涯学習	⑤茂原市の駅前の図書館は、開かれているように感じない。駅に近いというだけで良いわけではない。閉じられた箱型図書館ではみんなが使いづらく、現代的な図書館ではない。今までの図書館は、個人が調べて借りて帰るだけだったが、最近の良い図書館はコミュニティが生まれる工夫をしているため、ハード面の整備も必要ではないか。	・図書館については、学校図書館との連携強化に努められたい。また、利用者によるコミュニティが生まれる開かれたものとなるよう、施設整備についても検討されたい。 ・子どものうちからまちづくりに関わる機会を与え、地域社会の一員として必要な能力の育成に努められたい。 ・子どもの教育については、学校の教職員だけに頼るのではなく、地域の人材を活用し、地域全体で支える体制の構築に努められたい。 ・「市民ひとり1スポーツ」の理念普及に努め、老若男女を問わずスポーツを楽しむ機会を創出するため、組織横断的な取り組みに努められたい。 ・文化活動の拠点となる施設の整備を要望する。	テーマ1 施策5 (2)図書館の整備 <u>利用者のニーズを的確に取り入れ、時代に即した利便性の高い学習の場の確保に努めるとともに、多世代に渡るニーズに対応した多様な蔵書の収集に努めます。</u>
2	生涯学習	⑤図書館司書を全小学校・中学校に配置することが望ましい。また、図書館について、指定管理者は工夫しており、利用者が増えているが、もっと学校図書館との連携が必要である。学校図書館は限られた蔵書しかないので、生徒が中央図書館から蔵書を気軽に利用できるようなシステムを構築してほしい。		
3	学校教育	⑤茂原市では、乳幼児から小学生までは読書好きな子どもが多いが、中学生から読書から離れてしまう傾向がある。小学校まではいろいろな方法で読書の楽しさを教える機会があるが、中学校の読書活動にも、もっといろいろな施策を講じる必要があると思う。アンケートによると、本が好きな子どもは多いが、読書から離れていく原因を考えてほしい。読書はいろいろな能力の基礎となるものである。		テーマ2 施策1 (1)確かな学力の育成 <u>学校司書を中心とした授業支援を行うとともに、本に親しむ意欲と態度を育成する読書活動の充実に努めます。</u>
4	学校教育	②子どものうちからまちづくりの一翼を担う仕組みを作れないものか。行政と教育委員会が協力して動いてもらいたい。		テーマ2 施策1 (2)変化する社会で活躍できる能力の育成 子どもたちが豊かな創造性を備え、<u>持続可能な社会の創り手として予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層育成していくよう努めます。</u>
5	学校教育	③公園や道路は、子どもの視点で見直す必要がある。東京の自治体では、公園のリニューアル計画について子どもが議会に陳情して実現している例があるという。今の子どもは議会に陳情できる能力をもっているため、その能力に磨きをかけるため、教育に力を入れるべきだと思う。		
6	学校教育	③教育現場に携わるものとしては、子どもが将来健全な納税者になることを期待して、教育に投資していくことが重要だと考えている。ここでいう教育への投資とは、教育に関する扶助費を指しているのではなく、教育の質の向上を目指した投資である。短期的な効果は見えないかもしれないが、先行投資の大切さを感じている。茂原市の予算の中で教育が占める割合が多いことは存じているが、今後茂原に住み、茂原で働き、納税して支える、または市外で働いていても茂原に住み、子どもを茂原で育てて茂原を支える、そのような人を増やすためにも、教育への投資が大切だと考えている。		
7	学校教育	④これからの日本の未来を担う子どもは重要だが、先生が忙しくなっている。コミュニティスクールなど、学校だけに頼らずに地域で協力し、人的資源を育てることが必要である。例えば、野球のコーチの支援や、地域の資源を教えることや、登下校の見守りなど、学校側で受け入れることや活用する基本姿勢が必要である。しかし、どうすれば学校側は人的資源育成のシステムを構築できるのかについて、日々の業務の中で先生が考えるのは難しい。よって、市がシステムを考える必要があると思う。まずは、どのような市民が協力できるのか、人材バンクをつくることから始めると良いのではないかな。		テーマ2 施策2 (5)地域教育力の強化 <u>学校や保護者、地域の方々とともに知恵を出し合い、よりよい学校運営を図るため、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えられるよう、教育体制の強化に努めます。</u>
8	学校教育	⑤保護者や地域住民への説明は重要である。山武市では、最初にボタンを掛け間違え、トップダウンで統廃合を進めたため、地域住民は納得していない。そうすると、学校運営ができなくなるため、合併する際は説明を丁寧にする必要がある。また、親の目線だけでなく、子どもの目線が重要である。山武市では親と子の考え方が違い、親は合併反対だが、子どもは合併して学区も選びたいという考えがある。これらを踏まえた対応が必要だと思う。		テーマ2 施策3 (3)学校再編の推進 <u>保護者や地域との意見調整を図りながら、計画に沿って学校再編を推進します。</u>
9	スポーツ	⑤健康スポーツに関し、「市民ひとり1スポーツ」の取り組みを行っているが、現在どのくらいの水準になっているのか。競技スポーツも健康スポーツの一部と捉えることもできる。縦割りではなく、色々な分野に横断的に関わらないといけな。茂原はスポーツに関心のあるまちだと思う。		テーマ3 施策2 (2)スポーツによる健康・体力づくりの推進 <u>気軽にスポーツができる機会、環境を整備し、スポーツ習慣をつくる意識啓発に努め、高齢者には健康寿命の延伸や介護予防を目的としたプログラムの提供をするため、関連部署との連携を図ります。また、障害の有無に関わらず誰もが参加できるスポーツ環境の整備に努めます。</u>
10	文化芸術	②最近では文化的な施設が少なくなっており、文化活動ができる場所を行政と一緒に作る必要がある。文化のない所に人は来ないと思う。		テーマ4 施策1 (1)文化施設の整備 <u>(仮称)茂原市民会館については、建設基本計画策定後の状況変化を踏まえ、改めて検討を進め、早期の建設を目指します。</u>
11	青少年健全育成	④子どもに色々な場を与えるための取り組みが進んでいるが、子どもに対して大人がしてあげていることである。しかし、中高生は市民の一人であるため、もっと意見を聞いたり、乳幼児の検診の手伝いをできるとよい。母親が集まる場所は、フレンドリーで良い雰囲気であるので、中高生などこれから子育てに関わる人に来てもらえば良い。若年層のうちから、子どもを産み育てることに触れる機会があると良い。アンケートによると、茂原に住みたくないという中高生が多く、10年後に若い人がいなくなってしまうのではないかな。10年後に茂原の主役となる中高生に場を与えるのではなく、大人の一人として参加できる環境が必要であると思う。このような会議を聴く機会もないと思うし、参加の機会を作らないと若い人が減ってだんだん高齢化していくと思う。		テーマ5 施策1 (1)青少年育成体制の充実 青少年の豊かな人間性を育むため、<u>地域住民の参画を得ながら、体験型学習や異なる年代の交流等の多様な経験を得られる機会を提供します。</u>

茂原市総合計画審議会答申並びに意見対応(健康福祉)

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
1	地域福祉	③居場所づくりについては、社会を持続させるのは人であるため、空き家を活用するなどして、行政がバックアップして市民の活動拠点を整備する必要がある。働く場所も必要だが、集まれる場所や若い人が遊べる場所づくりが必要であるため、大胆に市街地を整備する必要がある。地域コミュニティが希薄化していることへの対策や少子高齢化への対策にお金をかけるべきだと思う。	・少子化、晩婚化、核家族化といった社会要因や、経済要因で複雑化した、子育て世帯が抱える課題を十分に把握し、必要な支援が行き届くように努められたい。 ・子育て支援と高齢者福祉など、異なる施策分野で連動し、相乗効果が得られるような取り組みを検討されたい。 ・心身ともに健康で豊かな生活実現のため、受診しやすい検診制度の整備に努められたい。	
2	子育て支援	②若い人が茂原で生活できるように、子育て環境の整備が重要だと思う。		
3	子育て支援	②改善はされているが、フルタイムで働いている母親を支援する施策が必要だと思う。		テーマ2 施策2 (1) 保育・幼児教育の充実 <u>多様な保育ニーズに合ったきめこまやかな保育サービスを提供するため、延長保育や一時預かり保育の充実に努めます。</u>
4	子育て支援	⑤人口減少を抑制するために、子育て支援は重要である。他市にないような取り組みが必要である。女性が茂原で子どもを育てて働きたい。例えば、駅近に子ども施設やスーパーマーケットが集約しているモデル地区を作るなどが考えられる。		
5	子育て支援	③子どもと教育の分野にお金をかけてもらいたいと思う。女性の支援や高齢者の活動にもつながる。今もある程度できているが、0歳児から子どもを預けられる体制をしっかりと作ってもらいたい。保育所に看護師を一人雇えば、小児科が少ないところでも助かると思う。子どもが病気のときでも預けられるので、よいと思う。子どもの遊び場に高齢者が見守りとして手伝うことで、子どもと関わることで生きがいが生まれると思う。子どもの頃に高齢者と楽しく過ごした経験が多くある子どもは、自然と市に愛着が出てくると思う。一度市外に出ても、子どもを育てるときに茂原はよいなあと考えると思う。市外で働くが、住むのは茂原と思えばよい。莫大なお金は必要ないが、できることは多いと思う。		関連する時間的・空間的視点に関わる取り組み <u>年代の異なる子ども同士や子どもと高齢者など、地域社会における世代間交流を通じて、子育てを地域で支える意識の醸成を図ります。(時間的視点)</u>
6	高齢者福祉	⑤子育て支援と高齢者福祉は、基本計画でどれくらい連動するのか。放っておくと、それぞれで自己完結していく傾向にある。行政も地域活動も分野で完結してしまう傾向があるため、もっと交わりを増やし、相互に連動できないか。		
7	保健医療	⑤児童生徒は、学校で歯科検診を受けているが、他の世代では歯科検診はなおざりになっているのではないか。公的な支援の歯科検診を受ける人は少ないのではないか。働き盛りの世代は、時間的に公的な支援の歯科検診が難しい。予防のための歯科検診への支援を厚くし、まちの歯医者でも気軽に歯科検診が受けられる制度など、利用しやすいようにしてほしい。		テーマ5 施策2 (2) 特定健康診査等の推進 <u>継続的な検(健)診や受診の習慣化を図るとともに、受診者の利便性に配慮した受診機会の拡大に努めます。</u>

茂原市総合計画審議会答申並びに意見対応(産業振興)

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
1	農林業	④現在、遊休農地が増えている。大規模農業や観光都市の実現以前に、基盤整備事業の推進などの文言を入れていただきたい。基盤整備の完了は10年間かかるため、未来を見据えた記載をすることで、地に足のついた計画になる。	・農業の担い手育成や農産物のブランド化などの施策については、関連団体と緊密な連携を図りながら、戦略的に取り組むことに努められたい。 ・市内の農業を持続していくため、新規就農者や兼業農家への支援など、農業経営者の裾野を広げる取り組みを検討されたい。 ・中心市街地の活性化については、商業核が移動している現状を踏まえて、見直しを検討する際は抜本的に取り組まれるよう要望する。 ・歴史や文化をはじめとする地域資源を活用し、受け取り手の共感と呼ぶストーリーの作成と、時宜を得た情報発信に努められたい。	テーマ1 施策1 (1)土地改良の推進 <u>農家への啓発、土地改良事業の推進に努めます。</u>
2	農林業	⑦土地改良によって道路整備や排水整備などすべてのことがうまく進み、まちづくりに貢献できる。土地改良法に則って、他にも土地改良に参加する地区も出てくると思うため、今後も連携して行政指導を進めて欲しい。		
3	農林業	⑦農業の担い手の育成や経営の改善、農産物のブランド化と販路拡大について、人と予算と時間が限られる中、このようなバラ色の目標は達成できるのか。今のブランドを保つのも難しいのに、ブランド化はできるのか。特産物の栽培促進を具体的にどのように行うのか、イメージが湧かない。主要指標の項目があるが、担い手の育成、法人化、多様な販路拡大、所得向上における目標値の設定、進捗管理の方法について教えていただきたい。		テーマ1 施策3 (3)農業後継者の育成 <u>国・県の農業関係機関、JA長生、農業委員会との連携を通じた農業後継者の育成に努めます。</u>
4	農林業	⑦本納ネギは最盛期の6分の1の生産量しかない。行政と流通の連携が必要である。商品戦略、地域戦略が無いと。総花的ではなく、選択と集中が必要。		
5	農林業	⑦茂原市だけでなく、日本と千葉県の実業の現状では、後継者がいない。このまま推移すると大変なことになる。兼業主体の農業者の視点など、純粋に農業を守ることから脱却した違う発想が必要だと思う。例えば、食の安全性をPRして自分で農作物を作るなど、一般市民を巻き込み農業の楽しさを伝えることで、その中から農業を始める人がいるかもしれない。兼業農家の農地は3,000～5,000㎡が多いのに、新規就農認定に5,000㎡必要なのはハードルが高すぎるのではないか。新規就農には、農機具や倉庫購入のために資本金が必要である。弱い新規就農者を良い方向へ導く方法が必要だと思う。純粋農業ではなく、違う方向からの支援が必要だと思う。耕作放棄地に関し、純粋農業者でないと使えない支援策である。		
6	農林業	農地の多面的な機能について、昨年の洪水で分かったように、水田の多面的機能は重要である。農政部門だけでなく、市全体でこの事実を捉える必要がある。地域によっては高齢者一人だけで、草も刈れない農業者が多い。一般の地域住民を取り込んで、多面的保全機能を図るモデル事業を検討したり、国や県に提案したりする必要がある。洪水対策や生活環境の保全と連動した幅広い目線を持つ農業施策を行ってほしい。		テーマ1 施策1 (3)農業用排水路の整備 <u>地域資源を地域ぐるみで守り支えていく共同活動の支援に努めます。</u>
7	商工業・中小企業	茂原市では平成11年度に中心市街地活性化基本計画が策定された。日本全国では、ほとんどが失敗している。茂原市では見直しを検討するようだが、何か大きく変わる要素が無いのに取り組んでも、同じ失敗をするのではないか。茂原市の商業核は駅前から移っているため、今までの考え方ではあまり効果がない。商業拠点である茂原市では、やりようによってはうまくいくと思う。中心市街地でうまい土地利用をすると面白いと思うが、新しいアイデアを生まないと中心市街地活性化基本計画を見直してもうまくいかないと思う。		テーマ2 施策1 (1)中心市街地の活性化 <u>中心市街地活性化基本計画の見直しを検討します。</u>
8	シティプロモーション	⑦長南町のお寺に象ができて名所になっている。ストーリーを組むことによって、お寺が観光資源になっている。長柄町の紫陽花の名所は県内10位以内の人気になっている。お金がかかった施設ではないが、うまいストーリーづくりがあって初めて報道されて共感と呼ぶ。茂原市の花であるコスモスの名所がいつのまにか無くなっている。自分たちの資源を大切にすることがある。七夕まつりについても大人の発想には限界がある。これからの時代を担う子どもに企画させて実際にやってみるのが良い。小さな取組をいくつも持続することが必要だと思う。		テーマ3 施策3 (1)積極的な魅力発信 <u>市民の参画を得ながら、茂原ブランドの浸透・共有と地域情報流通の促進を相互補完的に実施し、茂原の魅力向上や活性化に繋げることで、交流人口や関係人口の増加を図ります。</u>

茂原市総合計画審議会答申並びに意見対応(安全安心)

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
1	防災・消防	③レジリエンスの言葉の後に、必ず「しなやかな」という言葉が来ている。レジリエンスの本来の意味は、災害が起きないようにするのではなく、災害が起きたときに被害を最小限にし、できるだけ早く復興することである。しなやかさが、括弧書きで強調されているのはよいことだと思う。水害、台風、地震などの災害から復興する際のエネルギーについてのレジリエンスを高めていくことが一つの大きな特徴になると思う。	災害発生をなくすことは困難であるため、被害を最小限に抑えて速やかに復興する方策について検討されたい。	テーマ1 施策1 (4)災害復旧対策の強化 <u>電気、電話、ガス、水道等のライフラインについて、関係機関と連携し、迅速な復旧に努めます。</u>
2	消防・防災	⑥消防団の施設の更新を図る必要があるということだが、地域では消防団員の高齢化や成り手がないことで困っている。消防団員の確保についての具体的な計画を述べてほしい。費用補助が少ないため成り手が少ないとも聞くので、もっと支援が必要ではないか。成り手がないため団員は苦勞している。先日ぼやがあったが、鎮火後の始末を夜遅くまでしていた。大変な仕事であるため、自治会に頼らずに団員を確保できる仕組み作りなどの支援をお願いしたい。		テーマ1 施策2 (1)消防体制の充実 <u>長生郡市広域市町村圏組合の消防施設・設備の充実、強化を図るとともに、消防団の団員の確保や活動の活性化を図ります。</u>
3	消防・防災	⑥避難所におけるコロナ対策についての記述がないが、触れなくてよいのか。検討はしていると思うが、茂原市には広い避難所が多くあるわけではない。		
4	消防・防災	⑥自主防災組織の結成・活動を支援するとあるが、結成するまではよいが、その後の活動の支援が足りないと思う。発災時には、一番身近なところで助け合う「近助」が一番重要であるため、自主防災組織の活動をもっと支援していただきたい。		テーマ1 施策1 (2)自助・共助の取り組みの強化 地域における防災活動の核となる人材を育成するため、災害対策コーディネーターの養成、 <u>自主防災組織の結成・活動を支援するとともに、災害時における要配慮者対策を推進することにより「共助」の取り組みを強化します。</u>
5	消防・防災	⑥避難所が学校の体育館だが、避難所までのルートが冠水して行けない場合がある。安全な避難経路や避難所はどのようにして認知したらよいのか。災害の種類に応じた避難方法の周知方法を検討していただきたい。		テーマ1 施策1 (2)自助・共助の取り組みの強化 自然災害から市民の生命・身体・財産を守り、被害を最小限にするため、 <u>災害発生時に自ら考え行動できるように防災教育を推進するとともに、生活必需物資等の備蓄促進など「自助」の取り組みを強化します。</u>
6	道路	③財政再建について取組を進められてきたと思うが、市民が納めている税金を享受できることが少なくなっていると思う。大多数の市民が納得するには、生活道路や災害における水路の整備などが身近な空間の中で必要だと思う。	負担に見合った行政サービスの提供を受けていると市民が実感できるように、身近な生活道路の整備とその進捗状況の周知に努められたい。	テーマ2 施策1 (1)人にやさしい道路の整備 <u>交通渋滞を緩和し、利便性と安全性を確保した道路整備、交差点整備を進めます。</u>
7	交通安全	③高齢社会では、人の移動がしづらくなるため、移動手段をもっと考える必要がある。生活道路では段差が多く、車いすや自転車で転びやすく移動しにくいと、そこにお金をかける必要がある。		テーマ5 施策1 (3)安全安心な歩行空間の整備 <u>高齢者や障害者をはじめ、すべての人々が安全安心に通行できるよう、バリアフリーに配慮した歩道の整備を推進します。</u>
8	消費生活	⑥コロナウイルス感染拡大の状況下で、インターネットを使ったやりとりが増えている。それに応じた被害も全国的に増加傾向にある。現在の消費生活センターの体制増強を考える必要はあるか、どのように考えるか。	生活様式の変化、情報化の進展、感染症の蔓延など、消費者を取り巻く環境の大きな変化に対応できるように、相談体制と情報提供体制の拡充に努められたい。	テーマ6 施策1 (1)消費生活センターの充実 <u>消費生活センターを、相談対応や情報発信拠点として充実させるため、相談員や担当職員の研修参加機会を確保します。</u>
9	消費生活	⑥消費者の自立支援に関し、被害者には高齢者が多い。いきいきサロンやふれあいサロンなど高齢者が集まる機会では、健康関係で保健師はよく来るが、消費生活について話を聞く機会が少ない。警察を呼ぶことはあるため、事例をそこで話すとよいと思う。		テーマ6 施策1 (2)消費者教育の推進 <u>消費者トラブルの未然防止を図るため、消費者への啓発や情報提供を行います。</u>

茂原市総合計画審議会答申並びに意見対応(都市環境)

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
1	土地利用	②人口減少に伴い、都市構造をコンパクト化していく必要がある。	茂原市が持つ魅力を活かしつつ、目指していく都市環境の基本的な考え方を設定すべきである。実現に向けては、周辺地域とのつながりを考慮した広域的な視点で、かつ、長期的な見通しを持って進められたい。	テーマ1 土地利用 施策1 適正な土地利用の推進 (2)都市計画マスタープランに沿った各種規制誘導策の整備 都市計画マスタープランに基づいて、用途地域による建築物の制限や都市計画法による道路整備を促進し、都市基盤の充実した計画的な市街地の形成を推進します。また、JR茂原駅周辺の中心市街地における都市型居住を推進するとともに、郊外部における田園型の居住環境の保全・育成を図るため、市街地拡大に対して適正な規制・誘導を行います。さらに市街地の更なる拡大を抑制するために「立地適正化計画」の策定を検討します。
2	土地利用	⑥立地適正化計画の目的は、市街地の更なる拡大を抑制することだけではない。茂原市だけの事ではないが、今の都市計画マスタープランは右肩上がり時代の背景を前提としている。人口減少の時代では、どの市町村も適正な規模の人口をどこに配置し、人々が活動する都市機能をどのようにするのかを明らかにすることが必要である。		
3	土地利用	⑥ここは他市みたいに大風呂敷を広げて、多岐にわたって計画立案する必要はない。公共交通も今あるものをベースにする。しかし、人口減少時代においても一定の人口規模は欲しい。それを確保するためにも、どう適正にすることかというのを早いうちに都市計画マスタープランの見直しとともにしてほしい。民間施設の誘導や用途緩和などの方法もあるため、活用してほしい。		
4	土地利用	⑥都市環境の焦点が定まっていなくて感じる。適正化とは何をもって適正化なのか、量的なものだけでなく、茂原市なりの豊かさや魅力といった良さを織り交ぜてコンセプトを考える必要がある。総合計画にどこまで記載するかは別だが、都市計画マスタープランをはじめ、しっかり考えていくことが問われる。以前は一極集中または多極分散だったが、今は多極集中と言われる。いくつかの拠点を作りながら、居住、働く、産業の環境を集約していく。市内での適正化と、千葉県全体での拠点性を考え、広域的な環境での優位性、立ち位置、可能性を追求する視点が必要である。多極にどのような機能を持たせるかを考え、自己完結はできないため、ネットワークでつなぐ必要がある。どのようなコンセプトでコンパクト化・ネットワーク化を考えていくかは大事な視点であり、5年の話ではなく長期的に考える必要がある。		
5	市街地整備	⑥中心市街地が空洞化しているが、そもそも中心市街地の機能が大きく落ち込んでいる。商業の方で中心市街地活性化計画の見直しの記述もあったが、茂原は、中心市街地と副次核の本納と、合わせて市役所のあるシビックコアと大型商業施設のある区域を構造的に将来どのようにしていくのかが、立地適正化計画の中で重要な視点であると思う。	商業核の移転に伴い、中心市街地のあり方も変化していることから、整備方針について改めて検討されたい。	テーマ2 施策1 (1)中心市街地の整備 現在施行中の茂原駅前通り土地区画整理事業については、<u>中心市街地としての商業・業務環境及び住環境の整備を推進するとともに、核となる複合施設等の設置に向けて調査研究を行います。</u>
6	市街地整備	⑥今まではインフラの整備と物流の拠点を目指して来たと思う。これからは市民の生活で感じられる豊かさをひとつずつできることから積み上げる計画でもよい。住みたいと思える、目に見えて分かることがよい。例えば、駅から市役所へのルートに、障害者等が使いやすい多目的トイレ、自由に入ることができる場、高齢者が集える場が点在するなど、街自体に魅力があるような計画づくりがあってもよい。		(2)周辺市街地の整備 都市的な土地利用が図られていない地域については、<u>無秩序な開発を防止し道路網の整備とともに面的に都市基盤の整備された市街地の形成を図ります。</u>
7	市街地整備	⑥景観にしても、駅の南側に街路樹がずっとあるが、シンボルになるように紅葉の時期に見栄えがするものに変えるなど、一つずつ変えていくと住みたいまちになっていくと思う。		テーマ2 施策1 (4)都市景観の形成 景観計画に基づき良好な都市景観の形成を推進し、魅力的なまちなみ形成に取り組めます。
8	総合交通体系	②高齢者が自由に移動できるインフラ整備や交通機関の整備が重要だと思う。	人口減少により地域公共交通の維持が困難になる一方で、高齢化の進展によりその重要性は増していることから、地域公共交通網の最適化に努められたい。	テーマ3 施策3 (2)市民バス及びデマンド交通の運行サービスの拡充 <u>地域の実情に即したサービスの提供(デマンド型交通への転換、小型車両へのダウンサイジング、新たな運行システムなど検討)を図るため、関係機関と協議のうえ地域公共交通計画(仮称)を策定し、地域公共交通ネットワークにおける官民の連携強化や役割分担による取り組みを推進します。</u>
9	総合交通体系	②高齢のために病院に行けない人が多い。バスやデマンド交通は徐々に利用者が増えているが、まだ十分でない。病院や買い物のために使う人が多いため、支援が厚くなるとよい。		
10	公園・緑地	⑥市民のアンケート調査でも分かるように、茂原市の公園の整備状況は決してよくない。公園のネットワークの要素として元々飛行場跡地が緑道の候補地としてあったが、処分対象になっていた。既存ストックと今後の中心市街地のまちづくりは景観計画と連動して考える必要がある。あと、農地の保全をどう考えるか。茂原市の農地は都市環境を語る上では重要な意味を持つ。	公園や緑地の持つ多面的な機能を考慮し、景観計画など関連する計画とも整合を図りながら、整備、保全に努められたい。	テーマ6 施策2 (1)緑の基本計画の策定 <u>「緑の基本計画」は、まちづくりの基本指針となる「茂原市総合計画」「茂原市都市計画マスタープラン」との整合を図るとともに、「茂原市景観計画」「茂原市地域防災計画」等の各計画と連携を図ります。</u>
11	環境保全	③昔、ゴミ政策について茂原市は進んでいたが、それゆえに最近では停滞があると思う。大雨で注目されたが、日常的なゴミ政策に取り組む必要があると思う。減量化やコストの見直し、リサイクルなどに取り組んでいただきたい。	ごみ処理経費の削減と環境負荷の低減を目指し、ごみの減量化やリサイクルに関する取り組みの推進に努められたい。	テーマ8 施策1 (2)リサイクルの促進 <u>自治会や市民団体等の理解と協力のもと、リサイクルの促進を図ります。</u> (3)ごみ排出削減の推進 <u>ごみ排出抑制・減量化のため「3R」を推進し、コンポスター・EM容器の助成販売、生ごみ処理機購入費補助を実施します。</u>

茂原市総合計画審議会答申並びに意見対応(協働推進)

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
1	協働のまちづくり	⑦自治会では市民情報を分かりやすく周知し、市の方針を伝えることのお手伝いをしている。少子高齢化で会員が減少しており、特に若者の入会が少ない。要因は、情報の伝達の方法が従来とは違うことである。現在は、文字・文書による伝達であるが、日中家にいる高齢者だけが受け取ることができる。若い勤労世帯は日中外にいて、ITを使っている。ITでは情報量が多く、速い。現在の若い世代は文字情報ではなく映像を使っているため、今のやり方は衰退していく。若者に伝えるために、ITを使った情報伝達の方法を検討する必要がある。向こう三軒両隣が情報交換をして、いざというとき助け合えることをモットーにしている。テレビやスマートフォンなどは情報伝達が早いいため、そのような情報伝達方法が必要である。	幅広い世代の市民に必要な情報を届けられるよう、ICTの活用を含めた情報伝達体制の構築に努められたい。	テーマ1 施策1 (1)広報の充実および情報化対応の推進 <u>広報紙や自治会回覧などの紙媒体によるものとICTを活用した配信サービスにより、今後も迅速かつ確実に市民へ情報を発信できるよう努めます。</u>
2	協働のまちづくり	④自治会においては、女性に関係ないというスタンスがある。地域をまとめるために、自治会をもっと活用すべきだと思う。加入率を上げるためにいろいろな考え方があるが、自治会の中に女性部を作ってほしい。女性部ができることにより、女性の部長が選ばれ、自治会の役員会に参加できる。普段まちの中にいるのは、子ども、女性、高齢者であり、普段のまちの実態を知っている女性はすぐに動けるが、司令塔は男性である。	自治会活動をはじめとしたコミュニティ活動を活性化するためには、これまで中心的役割を担ってこなかった、女性や若者などの意見を取り入れ、積極的な参加を促す必要がある。	テーマ1 施策3 (1)地域コミュニティの活性化 <u>自治会未加入世帯の自治会への加入促進を図るとともに、コミュニティの担い手育成に努めます。</u>
3	協働のまちづくり	⑦若年層が自治会に加入することに関し、既成概念を取り払って考える必要がある。自治会に入ると得をするように知恵を絞る必要がある。女性の目線でアイデアを出すことも必要である。紙媒体の市政情報を取って読む人は少ない。紙媒体を取って保管することが得になるような仕組みを作る必要がある。本来的なものの考え方ではないが、そのような考え方をしないと解決できない状況になっている。自治会に入っている人も義理で入っている人が多い。茂原市ならではのアイデアで加入率を上げ、自治会活動が活性化する新たな仕組みを考えていただきたい。		
4	協働のまちづくり	⑦核家族化と高齢者独居世帯が増えている現実を見ると、高齢者一人では外に出ないのでこの人たちを外に引っ張り出していくことが地域の中で必要になる。自治会に入っていると、高齢者は外に出やすいが、一人になると回覧板を回せなくなり自治会を辞め、情報のブラックボックスになる。市民活動の場所に関して、自治会長や班長の家を使えなくなっている。近所で集まれるような場所、そこに行けば誰かと会える場所を確保する必要がある。市が新たに作る必要はなく、空き家を活用するとよい。場所を一時的に使えるように、市がシステムを作るとよい。自分たちのまちについて話し合う場所が必要で、外に出ることができる環境が必要である。そのためには、歩行者や車椅子が通ることができるような道路網の整備が必要である。	世代、分野、地域などが異なる人たちが交流し、まちづくりに関するイノベーションを生み出すことができるような場の構築について検討されたい。	テーマ1 施策3 (2)地域コミュニティ活動への支援 <u>防災・防犯・福祉・文化・スポーツなど地域における多様な取り組みの支援を図るため、集会所や自治会館の整備及びコミュニティ備品の充実に努めます。</u>
5	協働のまちづくり	⑦協働のまちづくりについて担当部署を考えるとこのような位置づけになるが、協働は横断的な手法を意味する。例えば、事業者同士の連携や、JAと行政の連携など色々な連携がある。ここでの位置付けは地域コミュニティでの協働だが、世代間、団体間、分野間、エリア間の協働などが考えられる。今までは縦割りでは手続きや組織の壁により、資源を活用しきれていないので、積極的につないでいこうというのが協働の基本的な考え方である。原案全体を見ていても、いたるところで協働の発想がまだまだ弱いと見受けられる。全庁的に協働を生かしていく必要がある。		テーマ1 施策3 (3)ボランティア活動等の促進 <u>ボランティア意識の高揚やボランティア活動の情報提供、活動拠点の確保を図るため、民間活力を活かした市民活動支援センターの充実及び社会福祉協議会と連携したボランティアセンターの充実に努めます。</u>
6	人権・男女共同参画	②人口減少・少子高齢化の中で、女性の役割を大きく捉えて、女性が活躍できる場をつくることや、起業を支援していく必要がある。	性別、年齢、国籍などが異なる、多様な市民が互いに尊重し合い、その個性と能力を十分発揮できる環境を整えることが必要である。	テーマ2 施策2 (3)男女がともにいきいきと活動できる環境づくり <u>高齢者や障害者に対するさまざまな支援や相談事業の充実を図り、男女がともにいきいきと活動できる環境づくりに努めます。</u>
7	人権・男女共同参画	③女性や子育て世代の視点が欠けてきたため、女性の活かし方を考えることが必要である。		テーマ2 施策2 (2)様々な分野における男女共同参画市の管理職への積極的な登用や各種審議会などへの女性の参画を促進します。

茂原市総合計画審議会答申並びに意見対応(協働推進)

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
8	適切な行財政運営	⑦茂原市職員の個人的資質が高いと思うが、活かしきれてないこともあると思う。新しい行政発想のためには、既成概念だけではうまくいかない。研修だけでなく、議論や職員提案で組織を活性化が必要がある。今までの発想では限界があるため、そのような視点の人材マネジメントをお願いしたい。	職員の能力向上を図る際には、業務遂行能力だけではなく、柔軟な発想や幅広い視野を養うことで、組織全体の活性化に資するように努められたい。	テーマ3 施策1 (2)人事管理の適正化 <u>研修等を通じ、職員の業務遂行能力や企画・立案・政策形成能力等の向上を図ります。</u>
9	適切な行財政運営	③生産年齢人口の減少が進んでおり、税収が減少しているため、税収の減収を防ぐことがベストだと思う。先日、長生村の村長にお会いしたが、ふるさと納税を活用しているとのことだった。平成30年度では6億円の収入があり、経費を引いた2.4億円が長生村の税収となっており、長生郡市では最も多い。一方、茂原市の金額は非常に少ない。税収を増やす努力にお金を使うことが必要だと思う。	共感を呼ぶことができる、まちづくりの取り組みを考案してPRするとともに、ふるさと納税制度などを活用し、税以外の財源確保に努められたい。	テーマ3 施策3 (1)財源の充実・強化 <u>ふるさと納税やクラウドファンディングなど、税以外の財源確保にも積極的に取り組みます。</u>
10	適切な行財政運営	⑦ふるさと納税について、日本全国の大半は、返戻品を目的に寄付を募っている状況である。しかし本来の意味からすると、こういう事業を行いたい、例えば故郷のコスモス畑をつくるという募れば、すぐお金が集まるのではないかな。もっとうまく活用して茂原市のファンを開拓する、郷土意識を使って回帰を願う施策を展開するとよい。		
11	行政改革と情報化	③各分野しなくてもよいものはないが、財政は限られている。多くの予算がかかるものは、民活に磨きをかけるとともに、行政の力を加えて任せっぱなしではなく、力を合わせて都市開発をするべきだと思う。	限られたまちづくりの資源を有効に活用するため、民間と行政が力を合わせて公共サービスを提供する体制の推進に努められたい。	テーマ4 施策1 (3)官民協力体制の推進(PPP・PFI等) <u>PPP・PFIなど民間の資金・経営能力・技術的能力の活用を検討し、最適な公共サービスの提供に努めます。</u>
12	行政改革と情報化	③茂原市だけでなく、長生郡市で協働するとよいと思う。茂原市は昔、周辺地域の物資の中継点であったが、今は何もなくなってきている。また周辺郡市と協力して、中継点としての役割を取り戻すのがよいと思う。	都市機能の共有、分担などについて研究し、近隣市町村との連携強化を検討されたい。また、広域的な視点で茂原市の役割を再認識する必要がある。	テーマ4 施策1 (4)広域連携の推進 <u>都市基盤や交通体系など市域を越えた課題を解決するため、長生郡市はもとより、より広い範囲の市町村と相互に協力し、連携しながら広域行政を推進します。</u>
13	行政改革と情報化	②都市機能を共有するなど、周辺自治体との間で広域連携を進めていただきたい。		テーマ4 施策1 (4)広域連携の推進 <u>市域を越えた圏域における都市機能の役割分担について、先進的な事例の調査研究に努めます。</u>

茂原市総合計画審議会答申並びに意見対応(総合戦略)

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
1	全般	②人口減少に対しては、国でガイドラインが決められているため、どの自治体でも同じようなことをしている。茂原市はできればとがった計画を作ってもらいたいと考えている。		
2	全般	②国が主導しているため、どの自治体も似たような施策をすると思う。全国の人口のパイは増えないため、他自治体との競争になり、勝てない可能性もある。茂原市ならではの施策に相当踏み込まないと実現できないと思う。ソフトでの支援は単年度の財政でみるとそれほど大きくないが、継続的に行うと効果が出るため、丁寧な政策が必要だと思う。		
3	全般	⑧基本目標やKPIは5か年変わらないのは良いと思うが、主要事業について5か年間変わらないのはどうか。5か年のうち見直せるようにしたほうがよいのではないかな。		【3か年実施計画を策定し、事業の推進を図っていく。】
4	全般	⑧総合戦略には基本目標1～4があり、国がゆるやかな枠組みを作っている。産業を強化していく、子育て環境を良くしていく、交流を豊かにしていく、地域の個性を生かしていくなどの観点を、どう結び付けるかが重要となる。例えば、県内どこでも子育て環境について謳われている。人口減少対策として、若い世代の分捕り合戦となっている。どこも同じことを謳っているため、子育て環境の整備だけでは難しい。若い世代にとどまってほしい、移り住んでもらうには、若い世代の住環境や働く場所もつなげて考えていくことが重要で、どれかを特出しするのではなく、有機的な戦略を立てていくことが重要である。総合計画の中に総合戦略を入れるため、重点施策のような位置づけとなる。今後、どこに重きを置いてまちづくりをしていくのか、どのような結びつきで、どのような環境整備で若い世代を引き付けるのか。	全国の市町村が同じ目標に向かって取り組むことから、茂原市ならではの施策を検討されたい。	第1章 第1節 (1)策定趣旨 本市としても、人口減少と少子化を抑制する取り組みを着実に推進するため、総合的な行政運営の指針である茂原市総合計画との一体化を図り、将来都市像を実現するための重点施策として、第2期「茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定することとしました。
5	全般	⑧総合戦略を総合計画の中に位置付ける意味について、この二つがどうつながっているかの色合いをもう少し出してもよいのではないかな。総合戦略を重点施策とするのであれば、より踏み込み、戦略性を描いていく必要がある。天然ガスであれば、研究・調査もあれば、産業としての可能性もある。どのような見通しの中で、この5年間を位置付けていくのか戦略性の第一歩となる。戦略性については実施計画で問われる。商店街の活性化については、消費者についても考える必要がある。物を「売る／買う」の関係性は流動化していたが、コロナで止まった。どのような工夫でこれを回復させるかが問われる。	基本目標に沿った施策群を結び付ける、有機的な戦略を立てることが重要である。	
6	基本方針	⑧主要事業の取組状況については、外部の評価をもっと加えてほしいと思う。また、実績値に○がついていない事業は、取り組んでいないものなのか。そうであれば、次の計画において、どのようにしていくのかは、どこで検討していくのか。		第1章 第1節 (3)基本方針 5.結果重視 本総合戦略で設定した数値目標及び「重要業績評価指標(KPI)」に対する達成度を、検証組織が客観的に検証します。その結果、改善すべき施策・事業については、必要に応じて見直しを行い、より実効性を高め、目標の達成を目指します。
7	基本方針	⑧個別の施策の評価の累積だけでは結果につながらない。総合戦略では、事業をするだけでなく、どのような結果になったかを厳しく評価することが特徴である。個別の目線と全体の目線、両方が必要である。		
8	基本方針	⑧アウトカム評価は難しく、厳しくも優しくもなりやすい。評価の基準をあらかじめ決めておいたほうがよい。		
9	基本目標1	③外房は人口が減少しており、企業も対策を考えている。茂原市も人口減少を止め、企業が離れるのを止めるにはどうするかを考え、そこにお金を投資すべきである。茂原に土地を探していたが、他の市に逃げてしまったお客様がいた。茂原にはまとまった情報がない一方、他の市は情報をしっかり持っていてすぐに提供されたということだった。これらの情報提供にお金を使っていたらいいと思う。		
10	基本目標1	⑧総合戦略は、内向きの計画に見える。第三者の意見が重要だと思う。農業や障害者雇用をしているベンチャー企業があるため、支援して呼び込むとよい。ICTを利用した戦略が弱いと思う。若い人を呼び込むには整備が必要である。テレワークが広がっているため、例えばITのステーションを作ると、家の近くのステーションに行き、東京の本社とつなげて仕事ができる。農業は廃れてきているが、農地は水害の防止として重要である。現在の農家は頑張っているが、成果が出ていない。ベンチャーを呼び込み、新しい考え方を取り入れてはどうか。5年間の農業起業は0件である。総合戦略を見ても、どのようなまちになるのか、頭の中にイメージ図がわからない。あれもこれもやりすぎて、よくわからない。現在あるものをどうにかしようとするだけに見える。第三者から評価してもらい、図を描いてもらうことも必要ではないかな。	企業立地の促進と市内企業の産業競争力強化を図るため、企業が必要とする情報の収集・整理・公開に努められたい。	基本目標1 (1) ①地理的優位性を活かした企業立地の促進

茂原市総合計画審議会答申並びに意見対応(総合戦略)

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
11	基本目標1	⑧地域資源を生かした新産業の創出において、新商品や新製品によって新たな企業立地を促進するとあるが、具体的なものが見えない。開発してから企業立地という順番になるが、現実性があるのか。天然資源がある茂原市において、市が天然ガスを利用し、市が儲ける仕組みは作れないのか。商品づくりから企業にお願いするのではなく、市がお金を稼げるまちづくりの方法を検討してはどうか。日本中どこでも同じような総合戦略を立てているが、人口増加地域の事例から学ぶ必要がある。人がやっていないことをチャレンジし、体力のある市にする必要がある。	ヨウ素をはじめとした茂原市ならではの地域資源を活かし、他市町村の先駆けとなるような取り組みを検討されたい。	基本目標1 (1) ②地域資源を活かした新産業の創出
12	基本目標1	⑧天然ガスについて、昭和30～40年代までは、新潟と千葉くらいしかなかったが、今は全国で使っているため、商品自体の独自性はなくなっている。「天然ガスなど」の「など」の中にヨウ素が含まれている。ヨウ素は千葉県でしか出ていない。また、植物用の活性剤の開発もしている。天然ガス単独では、商品として一般的であるため、価格勝負となってしまう。一方、天然ガスには民俗的な価値や、ジオパークなど、地質的な価値はある。		
13	基本目標1	⑧これからは商店街が難しい時代。これまでのように店舗が並んでいる商店街はできないと思う。駅前通り地区では、「商店街づくり」を考えるのではなく、「まちづくりの中での商店街」を考えている。芸術・文化・医療・介護を核としてまちの中心にあり、周りに商店が点在しているもよいのではないかと。インターネットで物を買う時代になっており、昔の商店街ではないまちを作っていく必要がある。		基本目標1 (2) ②商店街の活性化の推進
14	基本目標2	②茂原から人が出ていくばかりで、戻ってくるのは昔住んでいる人だけだと思っていたが、縁もゆかりもない人も引っ越してくるという。しかし、子育て支援が十分でなかったため、茂原から出ていった人もいる。長く住み続けたいとする要素を大事にしていく必要があると思う。	子育て支援や教育に力を入れ、多面的・総合的な支援により、若い世代が長く住み続けたいと思えるまちづくりに努められたい。	基本目標2 (2) ②子育てを地域で支える環境づくり
15	基本目標2	②私が茂原に戻ってきた際に、子どもが2歳だったが、保育園に入れなかった。公園や子育て施設が少ないと思う。千葉市の緑区はとても充実していた。茂原市も改善していただければと思う。		
17	基本目標2	④人口減少の中で生き残るためには、教育に力を入れないといれない。協働について調べたところ、企業城下町である茂原では、地元企業を巻き込んでアフタースクール、母親学級、子どもの見守りや子育てサロンをするというのでは。		
16	基本目標2	③私も子育てや若い人にお金を使うべきだと思う。高校生のアンケートで、茂原に住みたくない人の割合が最も高かったことにがっかりした。高齢者は茂原に住み続けたい人が多い一方、高校生に住みたくない人が多いのは、茂原に魅力を感じなくなっている現れだと思う。若い人が、子育てをして働きながら茂原に住み続けられるような施策にお金を使っていいただければと思う。例えば、小児病院の充実や、保育所の設備、住宅手当、公園や住居の設備にお金を使っていいただき、お金以外のフォローもして、若い人が茂原から離れない政策をしていただきたい。		基本目標2 (2) ③子育ての公的支援の充実
18	基本目標2	⑧基本目標2は「結婚・妊娠・出産・子育てを応援するまち」だが、人口が減っていく中で、女性の活躍が必要な状況が増えている。女性が子育てしやすい、働きやすい環境を作らなければ、少子化は止まらないと思う。次の計画にはこの点を加えてほしい。		
19	基本目標3	⑧天然ガスを使った茂原のまちおこしの市民団体活動に参加している。茂原に天然ガスがあることが、日本ですごくいいことを知らなさすぎる。よい資源があるのに、市民に周知されていないことが、新産業の掘り起こしにつながっていないと思う。誇っていいということを市民に周知し、市がPRすれば、何かを生み出すきっかけになると思う。人口増加には若い世代が重要だが、他自治体と取り合いをしているため、独自性を出すにはその地域にしかないものをPRしていくことが必要である。産業展開においては、天然ガスの企業誘致や新商品の開発の前に、市民に周知することに力を入れるべきだと思う。	まちの魅力発信にあたっては、市外だけではなく、市民向けのPRIにも努められたい。	基本目標3 (2) ②まちの魅力の発信

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
20	基本目標4	⑧例えば、本納には商店街と言えるようなものはなく、シャッター街になっている。多くの人は、車を止める場所がないため、郊外のスーパーに行っている。大きな団地があるわけではないため、車で行きやすいところに行く。まちづくりにおいては、商店街も大事だが、車で行きやすいように交通網を整備したほうがよいのではないか。	車の所有の有無に関わらず快適に生活できる、交通環境の整備に努められたい。	基本目標4 (2) ①快適で使いやすい交通ネットワークの構築
24	基本目標4	⑧30%を超える高齢化率の中で、旧来の町中の高齢者はほとんど家の中にいる。昼間、町中に人が歩いていない。日常的に地域の人がまちに出て歩き、近所に行けるようにする必要がある。車が40キロくらいで走っているため、高齢者が歩くと危険である。子どもたちが歩くのも危険。町中の道路が昔のままで、中央分離帯もない。そのような中では町中の賑わいを取り戻すのは難しい。道路構造や交通環境を変える必要がある。茂原は、大きなバイパスや幹線道路に囲まれている。バイパス沿いに大規模店舗があるため、車がある人はそこに行くが、車に乗れない人は福祉サービスを利用しないと生活が成り立たない。この構造を変えない限り、どこに商店を立てても、賑わいは戻らず、地域のイベントもできない。茂原の駅前通り商店街は一方通行で、商店がなくなった。生活に密着した商店を地域の中で育成しないと、地域社会が成り立たない。そのためには、住まいの周りの生活環境改善が必要である。車がなかったり、免許を返納した高齢者は、500メートル以上離れた場所には行きづらい。地域住民と共存した地域社会を作る。目標に至る道筋を示さないと、国から予算をもらうための絵にかいた餅になる。		
21	横断的な目標	③子育てがしやすいことも重要だが、定年後にも高齢者が働きたくなるような環境づくりをすることで、税收の減少を防ぐことができるのではないか。例えば、一人ひとりがゴミを拾うことを仕事につなげたりすることで、魅力のあるまちづくりにつながるのではないかと思う。	女性や高齢者、子どもたちなど、誰もが居場所と役割を持ち、活躍できるような社会づくりが重要である。	横断的な目標 (1) ②多様な人材の活躍推進
22	横断的な目標	⑧結婚・出産・子育ての応援のほかに、基本目標の中に、女性の活躍を応援するまちを入れてはどうか。		
23	横断的な目標	⑧茂原の中心地に、高齢者や子供たち、親など、人が集まれる場所がない。郊外にはある。今後は強力に空き店舗を利用して集まれる場所を作る必要があると思う。自治会員が集まれる場所もないため、話し合いができない。集まれる場所があれば自治会の活動も活発になるため、スピーディーに対応してほしい。		横断的な目標 (1) ①活発なまちづくり活動の推進